

令和7年度 第2回伊予市総合計画審議会 会議録

日 時 令和7年11月4日（火）
14時00分から16時00分
場 所 伊予市庁舎4階 大会議室

◇出席者

〔委員〕

前田 眞、香西 恵子、高木 綾子、西田 洋一、清水 涼太、高石 達也
森本 吉徳、須之内 靖、加藤 翔大、井上 仁、出来 和人、皆川 竜男

〔事務局〕

向井 功征（企画振興部長）、谷仲 寿夫（企画政策課長）
向井 英樹（企画政策課課長補佐）、曾我部 雅之（企画政策課係長）
木原 祐二（株式会社長大）、小林 昌太郎（株式会社長大）

◇傍聴者

なし

1 開会

2 議事

（1）伊予市の社会情勢（修正）について

（事務局）

-事務局より説明-

（会長）

ただ今の説明に対し、ご意見やご質問があれば、どなたからでもご発言ください。

-意見等なし-

（2）伊予市アンケート調査結果について

（事務局）

-事務局より説明-

（会長）

ただ今の説明に対し、ご意見やご質問があれば、どなたからでもご発言ください。

（委員）

アンケート調査結果の分析は、今後も充実させていくのか。

（事務局）

市民アンケートと進路に関するアンケート調査結果に加え、Well-Being アンケート結果についても、今後お示しする予定である。

Well-Being アンケートの結果は、今後、市民ワークショップで活用する想定である。

（委員）

進路に関するアンケートの設問である「今後の居住意向」について、質問の選択肢が「住みたい」と「住みにくい」になっているが、「住みたくない」ではなく「住みにくい」にした理由はあるのか。回答を誘導しているようにも見えるため、理由を伺いたい。

（事務局）

回答を誘導するような意図はなかったが、ご指摘のと通りの捉え方ができる。今後は気を付けたい。

（委員）

進路に関するアンケートの「今後の居住意向」で、「住みにくい」と回答した理由を伺っているのか。

（事務局）

「今後も住みたい」と回答した理由は伺っていたが、「住みにくい」と回答した理由については伺っていない。

（委員）

機会があれば、そのあたりも伺っていただきたい。

（委員）

市民アンケート及び進路に関するアンケートで、自由記述の質問があるが、自由記述の意見はまだまとめられていないのか。

（事務局）

現時点では簡易集計にとどまっており、自由記述をまとめてはいないが、特に子育てや教育に関する意見、医療・福祉、交通に関する意見が多くみられた。詳細は改めてお示ししたい。

（委員）

各施策の満足度について、令和6年度と比較すると、今年度の満足度は全項目で低下している。原因は何であると考えているのか。

（事務局）

今年度の結果が過年度と比較し、下がっていることは承知している。昨今の物価高騰や生活不安により、相対的に満足度が低下したのではないかと考えている。今後、自由意見も踏まえ、掘り下げていきたい。

（委員）

満足度は、令和6年度との比較ではなく、平成30年度等と比較し、長い目で見るのが重要であると思う。

（委員）

満足度だけでなく、重要度も全体的に低下しているため、本市の問題ではないように思う。

（委員）

満足度が低く、重要度が高い施策は、今後、重点的に取り組んでいくのか。

（事務局）

おっしゃるとおりである。市民の声を反映しつつ、バランスを取りながらまとめていきたい。

(委員)

本市がどのような取組をしているのか、現在の資料からは読み取れないため、取組を記載した資料があれば分かりやすい。今後、用意していただけるのか。

(事務局)

毎年、事務事業評価を実施しており、事務事業の進捗状況をまとめる予定である。適宜、お示しをしたい。

(委員)

食文化や観光は、伊予市の魅力であると思うが、市民の重要度が低いため、周知が不十分だと感じる。

また、進路に関するアンケートの対象者は高校3年生のみか。

(事務局)

進路に関するアンケートの対象者は、4月1日時点で15歳～17歳の市民から抽出した。高校1年生から3年生にあたる年代である。

(委員)

高校卒業後に転出する理由を掘り下げていく必要があると考えている。進学するタイミングの18～21歳で転出数が多いため、進学での転出は致し方ないが、どうすれば、戻ってくるかについて分析する必要があると感じる。

(3) ワークショップについて

(事務局)

-事務局より説明-

(会長)

ただ今の説明に対し、ご意見やご質問があれば、どなたからでもご発言ください。

(委員)

アンケート調査の結果とワークショップはどのようにリンクするのか。

(事務局)

リンクする部分とそうでない部分がある。アンケート結果とワークショップから出た意見をまとめ、方向性を決めていきたい。

(委員)

方向性を決めていく上で、ワークショップで出た意見のまとめかたを工夫する必要がある。特に、市の強みや弱みを繋げる作業に工夫をしてほしい。

(事務局)

ワークショップで出た意見から将来像を整理しお示しすることを想定している。その際、方向性や将来像について御意見をいただきたい。

(委員)

ワークショップは、地域や年代によって意見が変わると思う。市民ワークショップどのように実施していく予定か。地域別のワークショップの場合、参加者を地域の代表者とする、年齢層が高くなることが想定されるが、どのような対応を考えているのか。

(事務局)

複数回の開催体制をとることで、参加しやすいワークショップにしたいと考えている。ご指摘のとおり、参加者の年齢層に偏りができることが想定される。参加者の募集方法を工夫したい。

(委員)

Well-Being 指標について調べてみたところ、全国で総合計画に活用されているようだが、本市らしい総合計画を策定できるのか。多くの自治体で活用されていることは悪いことではないが、他自治体の総合計画から自治体名が変わったような計画にはしてほしくない。本計画に多様な意見を反映できるように、ワークショップを実施してほしい。地域以外のワークショップ実施も検討してほしい。

(委員)

Well-Being 指標には、主観データと客観データがあるが、全国と比較できる客観データが正確に見えるところがあるが、それが正確であるとは限らず、また、客観データに近づけないといけないわけではない。ワークショップ参加者の中にはそのように捉えられる方もいらっしゃるのではないかと。指標の捉え方については十分に説明した上で、意見を伺うことができれば良いと思う。

また、関係人口からの意見も伺うことで、良い計画にできるのではないかと。

(委員)

今回のワークショップは、Well-Being のワークショップではなく、あくまで総合計画のためのワークショップであることを参加者には理解してもらう必要がある。その点、十分に留意し、ワークショップを進めてほしい。

(事務局)

市民と市役所の認識に乖離が生まれないよう、しっかりと説明した上で進めていきたい。また、市全体が一体となって、まちづくりを進められるよう、職員にも Well-Being の考え方について十分に理解してもらい、今後の行政運営に反映したい。

(4) 関係団体等へのヒアリングについて

(事務局)

-事務局より説明-

(会長)

ただ今の説明に対し、ご意見やご質問があれば、どなたからでもご発言ください。

(委員)

団体ヒアリングは、各担当課も出席するのか。

(事務局)

現段階では、各担当課の同席は想定していないが、今後、調整を進める中で各課の同席が望ましいと判断した場合は、同席の方向で調整したい。

(委員)

各団体へのヒアリングシート内容に、課題や課題解決に向けて必要な支援について記載することとなっているため、担当課の同席があっても良いと思う。しかし、担当課でない視点からの意見も必要であることから、その点を踏まえ、調整してもらいたい。

(事務局)

承知した。その点を考慮し調整したい。

(委員)

より積極的に、まちづくりへの参画を促す必要があるため、伊予市のために団体として何ができるのかということを伺うような手法も必要ではないか。

(事務局)

検討したい。団体も活動そのものが難しくなっている中、新しい活動を始めた団体もあるため、そういうところもヒアリングできるようにしたい。

(委員)

ヒアリング内容によっては、30分では足りないと思うため、ヒアリング時間は柔軟に対応してほしい。また、団体からの要望を受けるだけでなく、要望に対する解決手法について議論ができれば、なお良いと思う。

(事務局)

ヒアリングと言いながらも、こちらの考えを伝える機会と捉えることもできるので、良いヒアリングとなるよう努めたい。

(5) その他

(事務局)

-事務局より説明-

- ・総合計画の計画期間を10年とすることが了承された。

7 閉会